

# 第1学年 算数科学習指導案

和歌山県下津町立大東小学校 山中幸也

単元名 たしざん(1)あわせていくつ (全体時間8時間)

コンテンツ名 「(1)あわせてなんにん？」 (S01.mpg)

第1学年 実施時期 1学期6月

## 単元目標

- 【関心・意欲・態度】 ・たし算が用いられる場面に興味をもち、たし算の式に表せるよさを知り、進んでたし算をもちいる態度をもつ。
- 【数学的な考え方】 ・合併や増加の場面を、たし算と考えることができる。
- 【表現・処理】 ・合併や増加の場面をたし算の式に立式し、(1位数) + (1位数) =(10以下の数)の計算をすることができる。
- 【知識・理解】 ・たし算が用いられる場面、たし算の記号や式の読み方、かき方、計算のしかたを理解する。

## 単元計画

- 第1時
- 第2時
- 第3時
- 第4時
- 第5時

本時の目標と展開 (本時はその1時間目)

○数図ブロックを操作し、合併の場面を理解することができる。

## 学 習 活 動

(1)問題場面を理解する (お話を作る)・・・デジタルコンテンツ利用  
(遊具のみの画面でポーズする)

- T 「ここは公園です。何があるかな」
- C 「ブランコがある」  
「1つある」  
「すべりだいがある」  
「公園だ 遊びたいな」

(左から3人くる場面でポーズする)

- T 「だれが、きましたか」
- C 「子どもが3人来た」

- C 「男の子2人と女の子1人、遊びに来た」  
T 「数図ブロックを子どもの数だけ並べてごらん」

- ・ 大型画面でコンテンツを見せ、あるものをヒントに問題場面をとらえさせる。
- ・ 理解を確実にするためために、場面の変化ごとに停止しながら提示する。

(2)人数の変化に気づき、数量化する

(右から2人くる場面でポーズする)

- C 「2人遊びに来た」  
「男1人と女1人遊びに来た」  
「2人増えた」  
「2人が「いっしょに遊ぼう」といった」  
T 数図ブロックを子どもの数だけ並べてごらん

- T 子どもはみんなで何人になったでしょう  
C 「5人」

- (T) 両側から両手で、中央に寄せるように操作させ、あわせて5になることに確かめさせる  
T 画面のようにブロックをまんなかへあつめたら、5つになったかな。

- ・ 問題場面で知った子どもの人数を数図ブロックであらわさせ、合わせた人数をみちびかせる。

(3)違う場面で考える(数図ブロックを利用)

(T) ボール4個と1個の提示図を黒板に張り出し、それぞれを左右から両手で、中央に寄せるように操作するところを見せる

- T ボールを集めました。はじめは、何個と何個でしたか。  
C 4個と1個  
T ボールの代わりに数図ブロックで4個と1個を集めてみなさい。→ 机間指導  
ボールはみんなで何個になったでしょう

- ・ ボール4個と1個の提示図から数図ブロックの操作をさせる。
- ・ 子ども3人と4人の提示図から数図ブロックの操作をさせる。

(4)合わせた数の数え方をデジタルコンテンツで確かめる

- T はじめに来た子どもの人数は、何人ですか  
C 三人  
T つぎに来た子どもの人数は、何人ですか  
C 二人  
T 合わせると、何人になりましたか  
C 五人

## コンテンツについて

大日本図書 算数数学の思考過程をイメージ化する動画素材集より

あわせてなんにん? [http://www.dainippon-tosho.co.jp/mext/nhk/es\\_01/s01.mpg](http://www.dainippon-tosho.co.jp/mext/nhk/es_01/s01.mpg)